

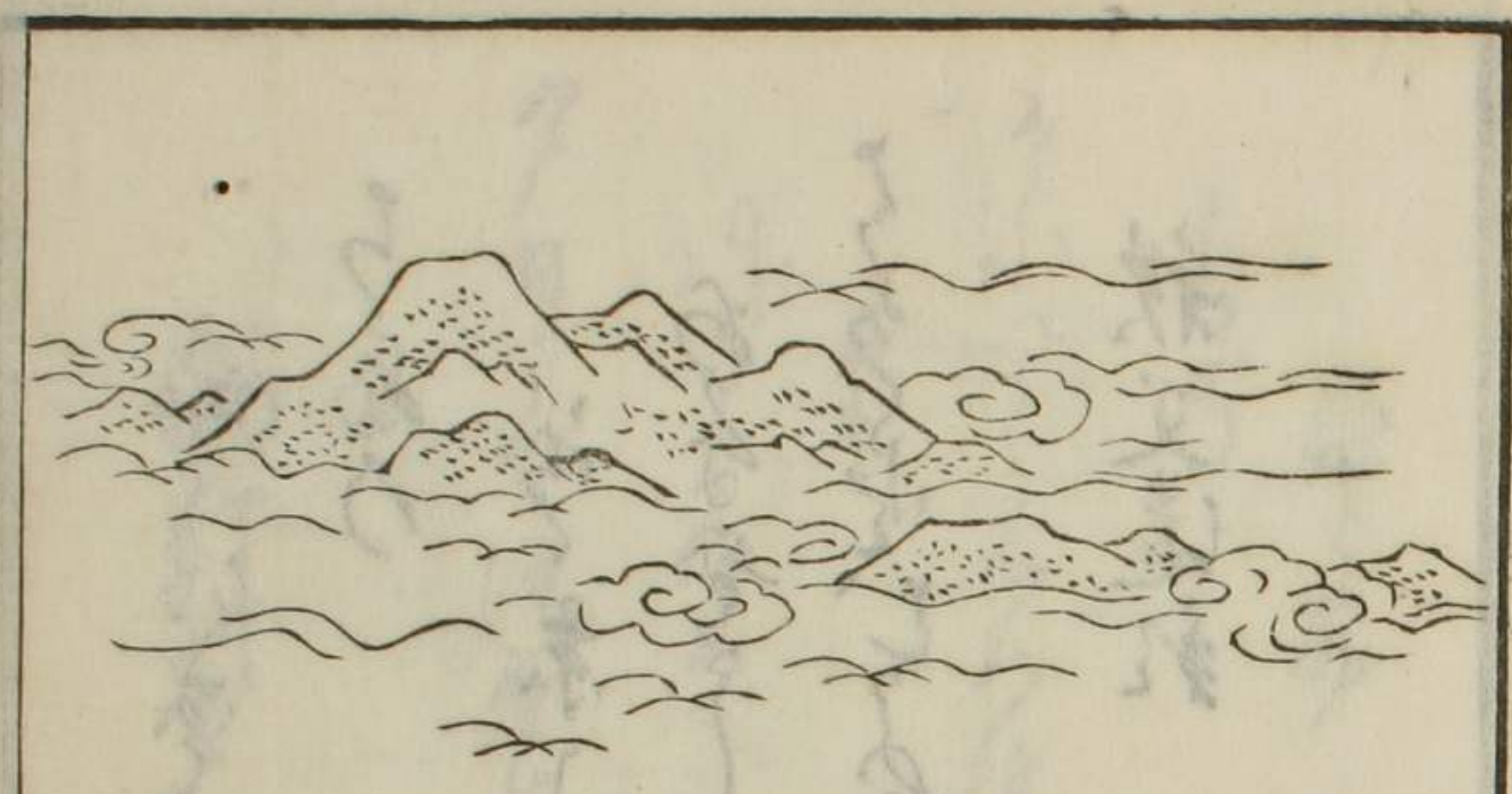


武陽
虎多山十二家傳歌
全

成瀬家藏書
一冊之内
和歌類
文之十門
第三四號
第一部甲

特別
A4
8102





飛波義隆

意行

田沼主殿

清くしらるるも

かたきよ

あゆむるを

まう先く人の

まふまにたうまを

狩野文信画



山は清く

らぬ

水も

あま

らぬ

秋又遠

雪溪 高本春新



山は

あま

らぬ

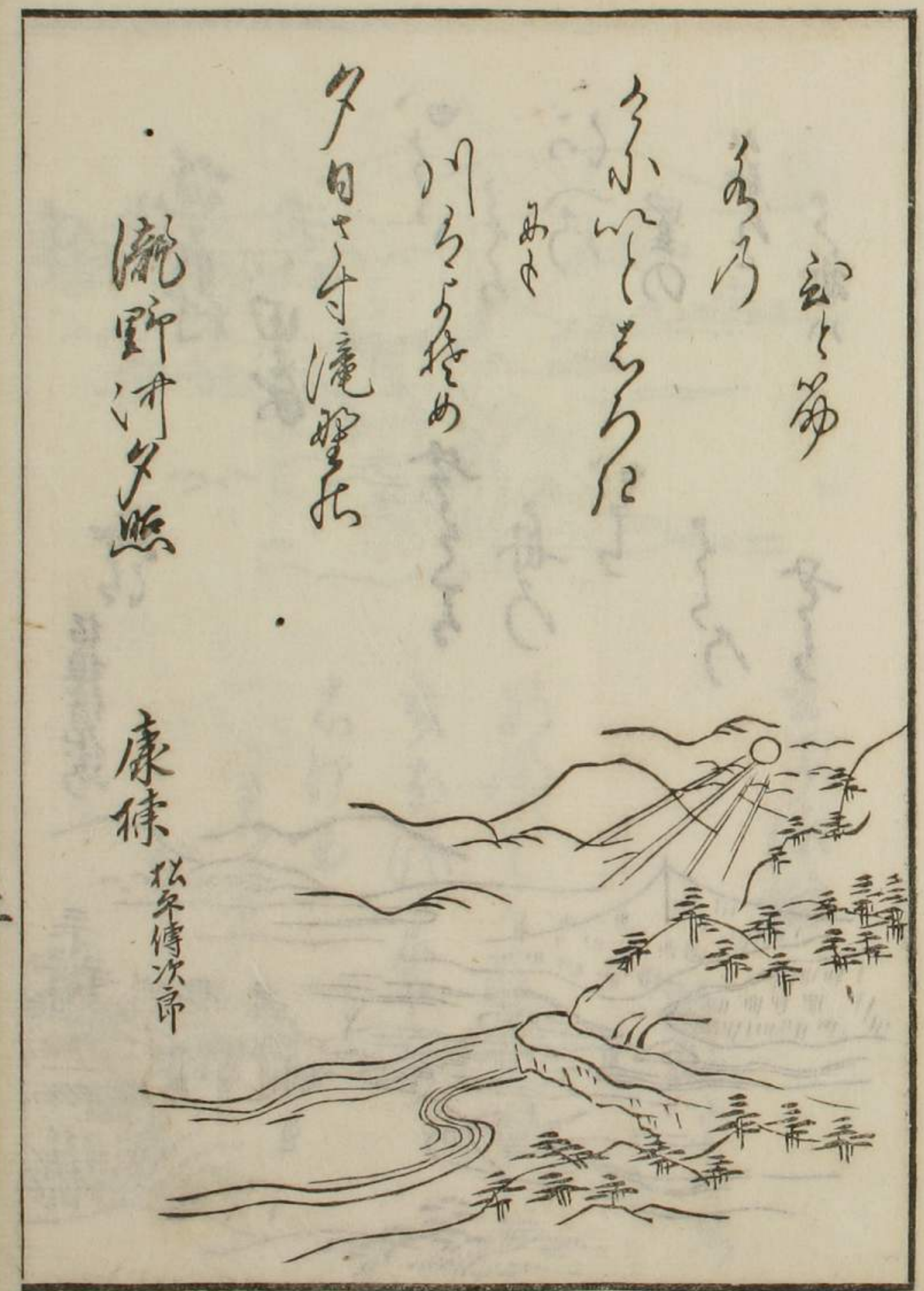
水も

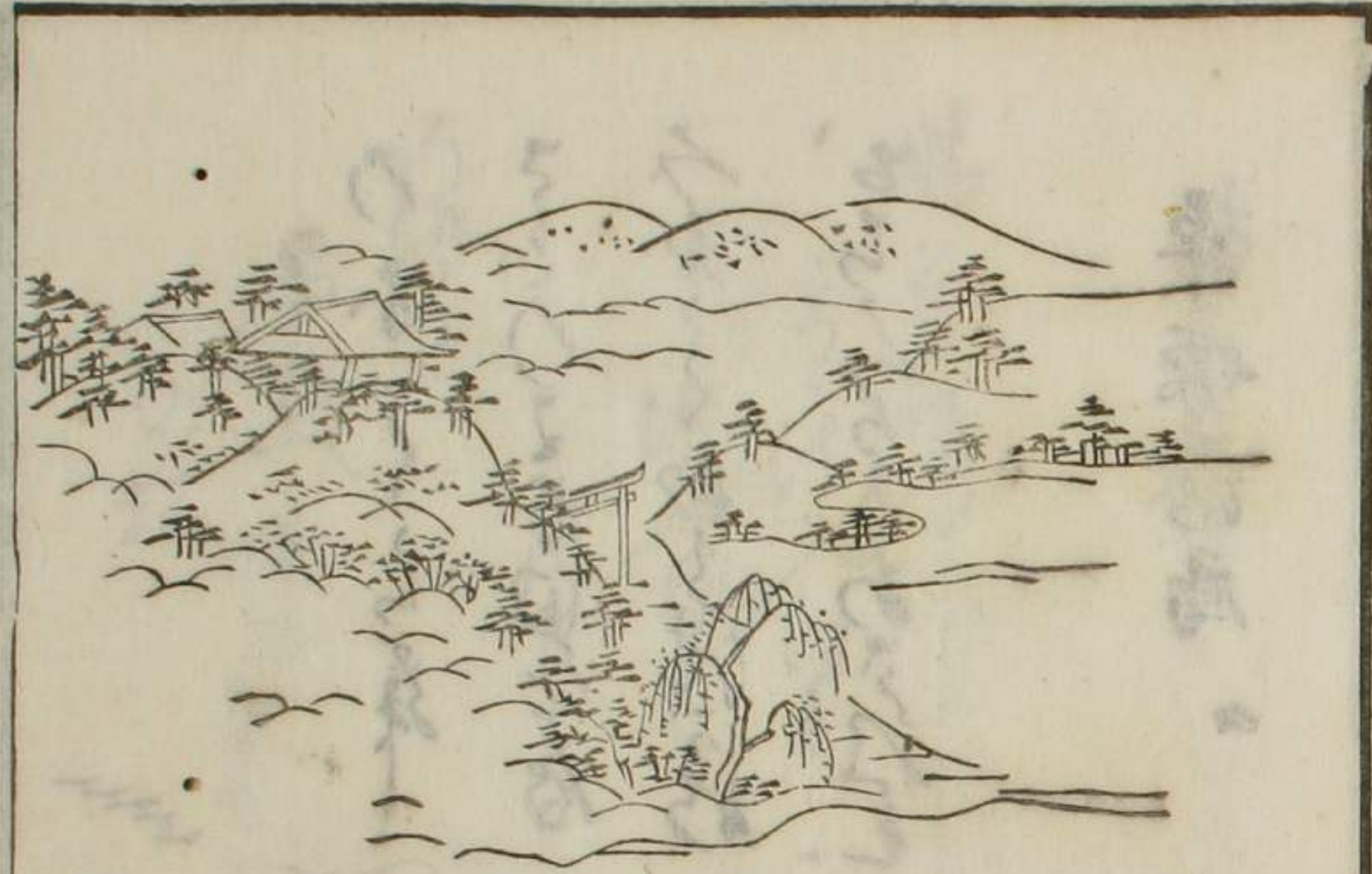
あま

らぬ

流野河夕照

康棟 松平傳次郎





王子源樹

親成 公室及在馬

あゆまらう法持源一

あぶ津木そら

あける

まの葉に

かゝるまはら



龍系村

田家

新法 招植傳在馬

かゝる

い乃

里の

り乃

うせハ

かゝる

舟乃

から

う乃

せう

乃かくら森
 ここのまき田を居
 今もくくゆくはつた
 おららるるあはれを

平塚落馬

官將 増出高治



信臺村月

信通 成鴻道宛

晴る夜乃
 ちり入る月
 月さ

乃ほり
 昌也
 の松





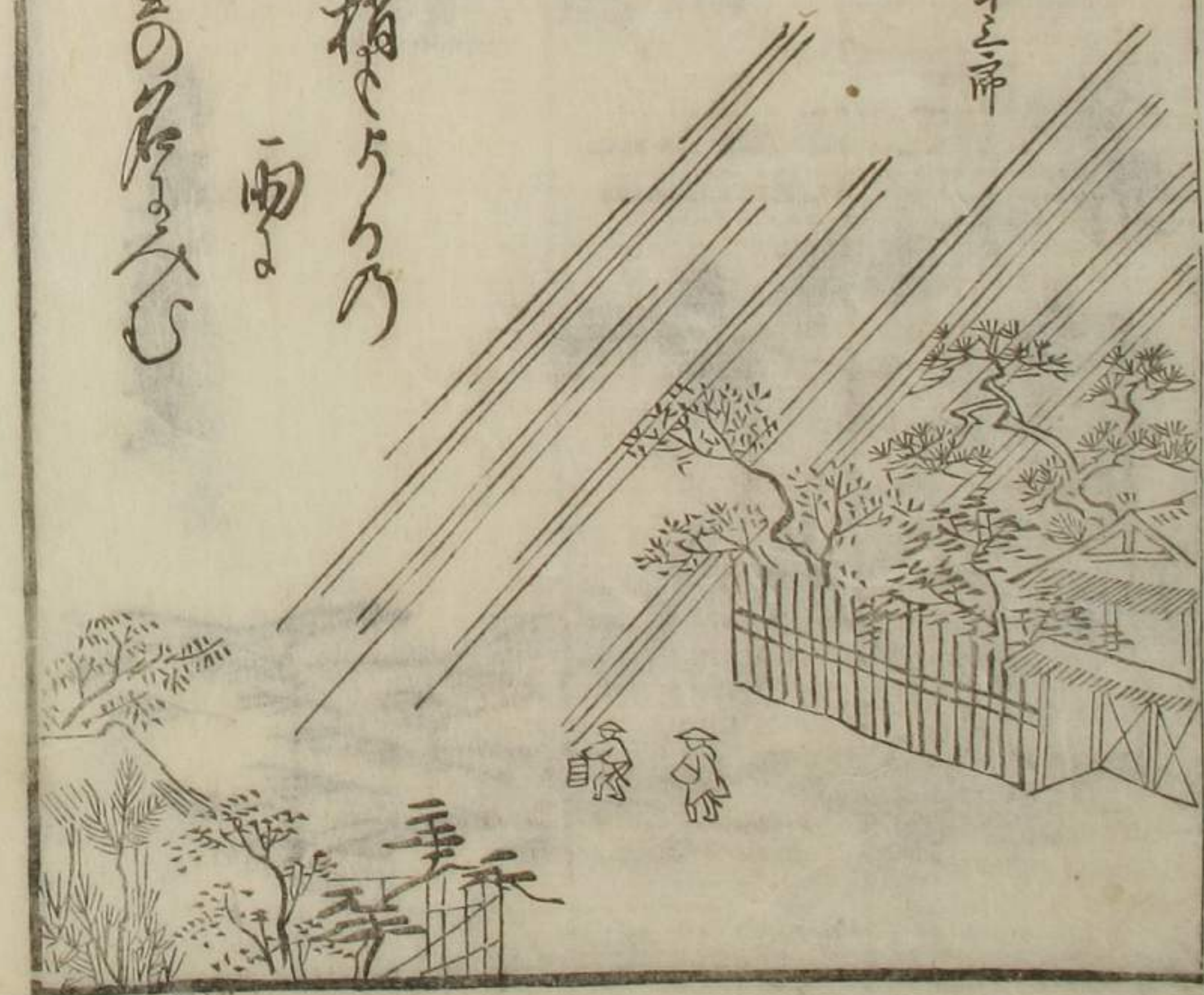
山乃名らそつら
 好なりとらんあそくも
 黒坂山後言
 まつこつあかた勢
 松ぶとせに下程

縄直 土屋宮

深井夜雨

利恒 長井草三郎

子入を深あるの指をうらり
 あはら深井の里の夜をいひ
 雨。





中里晚鐘

寸州 齋小野寺

善徳宗八和ぬ林寺

中二心

おく

あつたあ

おつたあ

たつた



豊 鴻 河 仰 帆

遂良 阿比之屋

御風

かき

あつたあ

あつたあ

あつたあ

あつたあ

あつたあ

あつたあ

あつたあ

西原晴嵐

頼哉 諏訪名部

くは毛ふく

夕日橙乃紅

小いころころ

雲をひらき

くは毛ふく



友信画

平將軍良茂
首十門飛二留

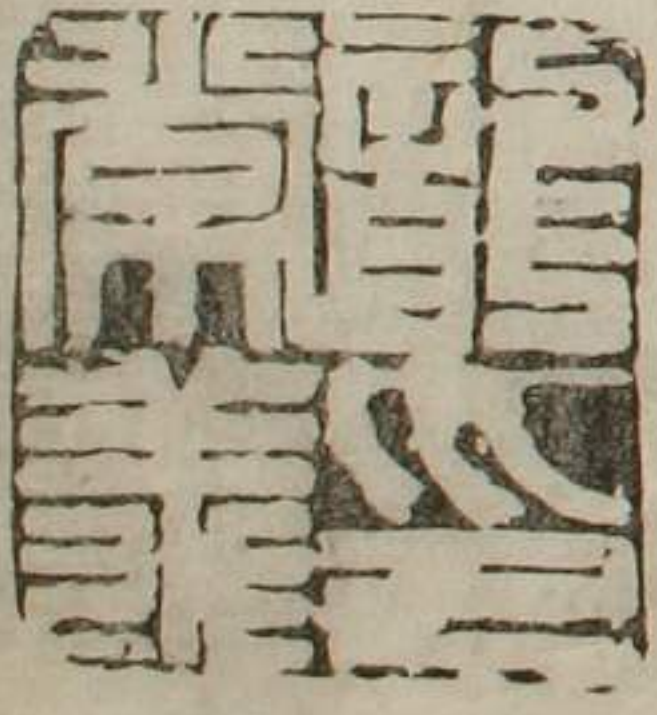
納涼	櫻花	郊野	也則	為地	飛鳥	飛鳥
薰風	祭爛	田里	不帝	也周	山	山
透衣	白雲	碁布	一瞬	回数	西東	十二
秋則	埋山	星列	千里	數百	都郊	景倭
紅葉	夏則	至若	遠山	步登	行六	歌跋
飄零	綠陰	春則	長江	斯山	六七	
					里其	

錦片滿地冬則千樹枯瘦松篁
 增色可謂四美具矣若夫雨奇
 晴好之佳興四時風雲之變態
 不知其幾千狀寔武州之絕境
 也來往東都者必無不游觀斯
 勝者驢入吟客迷志之所之未
 曾有箝口而歸也白丁亦曰佳
 哉山矣癸丑之夏國子祭酒赤
 城林先生取十二景作絕句以

稱述之皆是一時之所見也於
 乎山上之景何止乎茲哉况景
 中之風致哉誰得而盡其美焉
 元文二年圖書府主事鳴鳳卿
 撰飛鳥山碑刻著于石而後斯
 勝益彰方今芥寸艸游于斯惟
 以倭歌無題咏為遺憾遂使東
 都之善倭歌者大夫士庶凡十
 二人各倭歌一首咏之亦請大

本朝ホシ遂ス古コ陽カミ神カミ陰カミ神カミ之ノ唱シヤク和ワ者ハ倭ワ
 歌カ之ノ權ケン興キョウ也ヤ爾ニ來キ詞シ卷クワン言ゲン葉エフ愈イヨク
 出イデ愈イヨク茂モセリ彼カノ祠ヒコ所ノ謂ユレ二フタ神カミ是ナリ也ヤ神カミ
 如モシ爲タラハ靈レイ必カナラズ有アラ感カニ乎ヤ其ソノ志コト屬ヨニ余モツ以テ
 記キ其セム事コト讀ヨク林シ祭サイ酒シユ十ジフ二ニ景ケイ詩シ序シヨ
 鳴メ鳳ホウ卿ケイ飛ア鳥ス山ヤマ碑ヒラ則ラ禁ス已テ盡ツク余ヨ
 于レ無キ窮クニ不ズ亦ヤ寄ヨカラ乎ヤ嘗カツ聞キク
 其シ題タイ於ラ短タン冊サク藏サカ諸シヨ熊クマ野ノ祠ヒコ共ニ垂タレ
 中チウ太タイ夫フ拾シフ遺イ補ホ闕ケツ藤トウ君クニ資ス親チ書シヨ
 本ホ朝テウ遂ス古コ陽カミ神カミ陰カミ神カミ之ノ唱シヤク和ワ者ハ倭ワ

何ナニ費ヒマ詞コト然シカド後ノチ乃ハ今イマ可シ以テ觀ミ
 國クニ家カ美シヨウ平ヘイ文ブン物ブツ之ノ盛サカ而シテ東トウ都ト風フウ月ゲツ
 之ノ有アル人ヒト也ヤ美ビ矣ナ哉ナ時トキ乎ヤ是コレ爲ス跋バツ
 元ゲン文ブン已チ未ミ秋アキ九ク月ゲツ穀コク且ツ
 魯ロ菴アン龍リウ常ジヤウ義ギ友イウ賢ケン甫ホ識シ



九終

元文六年辛酉春二月朔日

駒込吉祥寺前

江都書肆

大和屋孫兵衛

花房屋平三郎發行

